

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年2月28日

北海道運輸局

協議会名:北海道生活交通確保対策協議会

評価対象事業名:令和5年度 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	評価結果
北海道生活交通確保対策協議会	北海道中央バス株式会社	滝新線ほか全21系統	利用動向に応じたダイヤ設定を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 広域的・基幹的系統である全21系統を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり事業は適切に実施されている。</li> <li>・コロナ後の需要の変化を把握すると共に、引き続き関係者の連携のもと適切な運行計画の策定、路線の再編などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。</li> <li>・また上記取組にあたっては、収支改善に資する取組となるように、取組の効果を把握し適宜見直しを行うことを期待する。</li> </ul>
	ニセコバス株式会社	小樽線ほか全3系統	ダイヤ改正時に合わせて、ホームページへの掲載及び各社新聞折込を実施し、利用促進に努めた。また、バス事業者による情報発信だけではなく、各自治体においても利用促進策(情報発信・住民説明等)を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ほぼ目標が達成されている。	引き続き、沿線自治体と連携して住民への利用促進PR等を行い、乗車人員の向上を図るとともに、路線毎の分科会において利用促進策、ダイヤの見直し等を検討。また、検討するにあたり、利用実態調査を実施して利用客の動向やニーズの把握にも努める。	
	夕張鉄道株式会社	新夕張駅前～新札幌駅前ほか全4系統	沿線市町の利用者ニーズを反映させつつも、運行の効率化を図るため関係自治体との協議を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 広域・幹線の系統である全4系統を維持できており、生活交通ネットワークの確保につながっている。	札幌代行線の維持・確保に向け、最適化を図るため沿線市町と今後も協議を実施する。	
	函館バス株式会社	大野線②ほか全23系統 車両減価償却費等国庫補助金	一部の路線で、沿線住民、利用者のニーズにあわせ、運行回数や運行時刻の見直しを図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 広域的・基幹的系統全23系統を維持することで、地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線住民、利用者のニーズにあわせたダイヤ・停留所の設置を実施するとともに、必要に応じて、生活交通の維持のため、ルートや運行回数等の見直しを実施する。	
	道南バス株式会社	室蘭市内線②ほか全15系統	利用者の動向や地域の要望に応えルートやダイヤの見直しを実施した他、運行情報の提供や啓発・周知活動等は継続して実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 全15系統の運行により地域住民の足となる生活交通は確保された。	沿線自治体と連携して利用促進に取り組むほか、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	評価結果		
北海道生活交通確保対策協議会	あつまバス株式会社	千歳線ほか全4系統	関係自治体と協議を行い、ダイヤ及び停留所の見直しを実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	地域住民の生活交通として重要な全4系統の維持ができており、地域全体の交通ネットワークの維持につながっている。	沿線住民・利用者のニーズに合せダイヤ・停留所の設置を行うとともに、生活交通の維持をする為、運行の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり事業は適切に実施されている。</li> <li>・コロナ後の需要の変化を把握すると共に、引き続き関係者の連携のもと適切な運行計画の策定、路線の再編などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。</li> <li>・また上記取組にあたっては、収支改善に資する取組となるように、取組の効果を把握し適宜見直しを行うことを期待する。</li> </ul>
	十勝バス株式会社	芽室線ほか全7系統	公共交通を利用した外出に係る目的提案の強化と、地域住民とのコミュニティづくりをさらに進めて、バス利用の拡大・収支改善を図った他、持続可能な路線再編による生活交通ネットワークづくりについて沿線自治体と協議を進めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・幹線的系統である全7系統を維持できており、生活交通ネットワークの確保につながった。	まちづくり・共創事業を通じた地域住民とのコミュニティづくりをさらに進めて、バス利用の拡大・収支改善を図る。また、人口減少時代に則した持続可能な路線再編による生活交通ネットワークづくりについて沿線自治体と協議を深める。	
	北海道拓殖バス株式会社	緑駒線ほか全8系統	帯広市環境教室を沿線小学校2校で計2回実施した他、キャッシュレス決済のPR媒体やSNSでの発信を行い周知を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	緑駒線など全8系統の維持がなされ、386千人の利便性向上が図られた。	今後も沿線利用者ニーズを把握し、持続可能な生活交通とするため沿線自治体と協議の上運行ルートや運行時刻・便数等を見直し、運行の効率化を図る。	
	くしろバス株式会社	遠矢線ほか全10系統 (共同運行1系統を含む)	利用実態調査を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・基幹的系統である全10系統を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線利用者のニーズを反映させつつ、利用しやすく安心できる生活交通とするため、必要に応じて関係自治体と協議し、運行の効率化を図る。	
	阿寒バス株式会社	阿寒線ほか全4系統	観光客向けサイトでの時刻表の掲載などの情報発信強化、自社ウェブサイトでの運行情報の多言語発信等(事業者、関係自治体)を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・基幹的系統である全4系統を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつ、持続可能な生活交通とするため必要に応じて関係自治体と協議し、運行の効率化を図る。	
	根室交通株式会社	中標津線ほか全3系統 (共同運行1系統を含む)	利用実態調査を実施した他、Googlemapsへ路線情報の掲載をし利便の向上を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・幹線的系統である全3系統を維持できており、管内の住民の通学・通勤・通院等の生活交通ネットワークの確保に繋がっている。	利用者ニーズを把握し、持続可能な生活交通とする為、利用実態を基に関係自治体と協議の上、運行ルートや運行時刻・便数等を見直し運行の効率化を図る。	
	北海道北見バス株式会社	温根湯線ほか全11系統 車両減価償却費等国庫補助金	ホームページの路線・時刻検索などの周知方法を見直し、利用者の利便性向上を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	生活に欠くことのできない基幹的系統である全11系統を維持出来ており、地域住民の交通手段を確保している。	地域利用者のニーズを反映したルートに変更する等利用促進に努め、また、運行回数の見直し等により、運行の効率化を図る。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	評価結果		
北海道生活交通確保対策協議会	網走バス株式会社	女満別空港線	デジタルサイネージ(電子看板)の設置により利便性向上を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	利用者の増加に伴い、平均乗車密度が5を超える実績となった。	関係自治体と連携を密にし、PRを強化するとともに、観光客利用等の促進を図る。	<p>・計画どおり事業は適切に実施されている。</p> <p>・コロナ後の需要の変化を把握すると共に、引き続き関係者の連携のもと適切な運行計画の策定、路線の再編などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。</p> <p>・また上記取組にあたっては、収支改善に資する取組となるように、取組の効果を把握し適宜見直しを行うことを期待する。</p>
	北紋バス株式会社	雄武ほか全4系統	沿線自治体と連携し、ニーズに合った運行体系の構築に取り組んだ。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	西紋地区唯一の公共交通機関として全4系統の維持確保ができており、あわせて地区全体の交通ネットワークの確保につながっている。	沿線自治体と連携を密にし、必要にあわせて、利用者ニーズに合わせた運行形態、維持可能な運行形態など、様々な面からの事業の見直し、効率化を図る。	
	道北バス株式会社	名寄線ほか全9系統 (共同運行1系統を含む)	名寄線において道の駅けんぶち立寄りなど沿線自治体からの要望により一部ルート見直しを図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	道北地域の名寄線など全9系統を運行することにより、地域住民の足を維持・確保できた。	沿線地域と持続可能な公共交通の維持に向けた協議を実施し、運行の効率化を図る。	
	ふらのバス株式会社	旭川線	地域の要望に応えたバス停新設の他、利用者の少ない便を減便(8便→7便)し、収支改善に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・基幹的系統である旭川線を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。	
	沿岸バス株式会社	幌延留萌線ほか全3系統 (共同運行1系統を含む)	関係市町村と協議を行い、地域住民から寄せられている意見や要望を把握し、適切に対応することで利便性向上に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・幹線的系統である全3系統を維持できており、留萌管内における地域住民の生活交通ネットワークの維持につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、今後も継続的に関係自治体と協議を行い、必要に応じてルートや運行回数等を見直しを行い、路線の効率化と改善を図る。	
	名士バス株式会社	恩根内ほか全3系統	関係市町村とダイヤ見直しなどの協議を行い、利便性向上に向けた検討を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	幹線的系統全3系統を維持したことにより、生活交通ネットワークの維持に繋がっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、地域住民の足を維持・確保する。	
	空知中央バス株式会社	滝深線ほか全4系統	利用実態調査に基づき、運行回数の見直しを実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・基幹的系統である全4系統を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズ把握・反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	評価結果		
北海道生活交通確保対策協議会	ジェイ・アール北海道バス株式会社	長沼線①ほか全3系統	毎月乗降調査を実施し利用実態の把握に努め、ダイヤの見直しを行い、効率的な運行を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・幹線的な系統を維持できており、当該地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	地域交通として重要な位置づけとなっていることから、沿線自治体等と連携し利用促進に取り組む。	<p>・計画どおり事業は適切に実施されている。</p> <p>・コロナ後の需要の変化を把握すると共に、引き続き関係者の連携のもと適切な運行計画の策定、路線の再編などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。</p> <p>・また上記取組にあたっては、収支改善に資する取組となるように、取組の効果を把握し適宜見直しを行うことを期待する。</p>
	有限会社下段モーターズ	あいの里金沢線ほか全2系統 車両減価償却費等国庫補助金	利用者の状況に合わせ、バス停の新設や運行経路の変更を実施し、利便性向上を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	全2系統を維持できており、地域住民の生活交通ネットワークの確保につながっている。	公共施設を結んでいる路線であることを周知するとともに、駅への接続など住民が利用しやすいダイヤを構築し、利用者増を図る。また、利用者の状況に合わせた運行経路・バス停等の検討を行う。	
	新篠津交通株式会社	北新線	利便性向上に向け、ダイヤの見直しを実施した他、沿線自治体と協議を行い、地域住民のニーズ把握に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	北新線を運行することにより地域住民の足を確保できた他、輸送量も徐々に回復傾向にある。	令和6年度10月から高齢者が乗降しやすい低床車両に入替える準備に入っている他、令和6年12月から利用者の要望によりダイヤ変更を行う予定。	
	旭川電気軌道株式会社	いで湯号	外国人観光客の激増で市町村負担額が増加したこともあり、持続可能な公共交通の維持に向けた関係市町村と路線の見直しの協議を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	いで湯号の運行が維持できており、地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化と利用者増を図る。	
	有限会社誠和運輸	新十津川線	町地域公共交通活性化協議会と連携し、令和5年9月に実質無料で利用できるお試し乗車を実施して、公共交通の周知及び利用促進を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	新十津川町と滝川市を結ぶ地域間幹線系統として運行し、新十津川町内の地域内フィーダー系統との乗継ぎにより生活交通ネットワークの確保につながっている。	利用者からの意見聴取等を行い、より利用しやすい公共交通となるための利用促進に向けた取り組みを進める。	